

桂林

岩 井 純

I. 始めに

16時55分発の中国東方航空で成田を出発、上海浦東空港を経て（上海から上海航空に乗り換えて）桂林両江国際空港に向かったのは2015年2月6日のことであった。桂林両江国際空港（広西チワン族自治区桂林市臨桂県両江鎮）に到着したのはすでに零時をまわり7日になっていた。迎いのバスに乗ったのは午前1時45分である。空港は桂林市の中心部から28km離れたところにある。宿泊するホテル星程西山商務大酒店（桂林市秀峰区西山路）までは、深夜で道がすいているため30分で行く。

筆者が桂林を訪れる少し前には、イスラム国に拘束されていた湯川遥菜と後藤健二の2名が殺害されるという事件があった（湯川殺害は1月24日、後藤殺害は1月31日と見られる）。また、2月4日には台湾の台北松山空港発、金門島行きのトランスアジア航空が離陸直後のエンジンの故障で墜落し、乗客53名・乗員5名のうち生存者15名・行方不明者3名・死亡40名という事故があった。

以下、見聞したことを記してみるが、ガイドの黄自萍さんに負うところが大きい。黄自萍さんは桂林出身のチワン族で、大連の大学を卒業している。彼女の見せてくれた身分証明書には民族名が書かれていた。民族名を書くのは当然という意識であり、抵抗感はないという。少数民族だけではなく、漢民族も民族名を書くことになっている。黄さんは3歳の女の子の母親である。ガイド歴は12年。日本語は大学で4年間、ガイドになって12年、合計16年間使っている。

II. 桂林概観

2月7日の天気予報は、曇りのち晴れ、気温は1度～11度ということであった。神奈川県とほぼ同じくらいの気温、あるいは少し暖かいぐらいの気温である。桂林は温暖湿潤気候（緯度的には亜熱帯気候）に属し、7・8月が一番暑く、35度C前後になることが多い。40度以上になることもあるという。4・5月は青空が多いらしい。桂林の秋は短く、すぐ冬になる。桂林は山に囲まれており、天気が変わりやすい。湿度が高く、霧にかすむこともある。桂林を訪れるのによい時期は4月～10月だと言われるが、黄さんは3月～4月がよいという。3月～4月は雨がよく降るが、雨の次の日は景色がよく見えるとのこと。町の真ん中を漓江が、北から南へ流れている。漓江（全長437km）を、竹江（ちくこう）埠頭から陽朔（ようさく）まで下る間の景色は水墨画のような景観である。桂林は約3億年前には海の底であり、約2億年前に隆起して陸地になったと考えられている。海の底に沈積した石灰岩が隆起し、その後浸食されて現在見られるようなカルスト地形となった。桂林の山はすべて石灰岩でできているらしい。鍾乳洞もある。桂林は山がたくさんあり、地元では3万3333の山があるというらし

い（山と三の中国語の発音が似ているところから）。桂林の山の特徴は、山々が繋がらず独立峰を形成していることである。浸食からとり残されたのが現在の山々である。黄さんによると、中国は地図で見るとトリの形をしており、桂林はそのおなかのところになるという。

漓江（珠江水系の西江の左岸支流）と湖南省を流れる湘江（長江の支流）とは靈渠（れいきよ）運河で結ばれている。靈渠は秦の始皇帝が軍事目的で造ったものである。中国の北部を統一した後、越人征服のために軍隊を送り込み、穀物の補給をするために造った。隋の文帝と煬帝が整備した京杭大運河（けいこうだいうんが）で黄河と長江が結ばれたことで、中国の三つの水系（黄河、長江、珠江）が結ばれたのである。

桂林城の堀であった榕湖や杉湖がある（一部の湖は埋め立てられていたのを最近になって浚渫・改造したらしい）。これらは唐・宋代の堀であり、800年以上前の堀である。

桂林市区（秀峰区・疊彩区・象山区・七星区・雁山区・臨桂区）人口は75万人ほど。桂林は観光の町で、毎年、訪れる観光客（国内外を含め）は3200万人にのぼるといふ。市の人口の7割が観光に関わる仕事をしているらしい。レストランも多い。夢幻漓江ショー（午後7時半～8時半の上演で、料金は260元）などのバレエと雑技を組み合わせたショーも行なわれる。出演者の中には小学生もいるらしい。黄さんによると、桂林市は中国で観光業を開発した4大都市（北京・上海・西安・桂林）の1つだといふ。桂林は昔から自然の美しいところとして知られている。桂林市が外国人観光客を受け入れ始めたのは1973年かららしい。桂林市の総人口は約495万人、そのうち少数民族は約68万人で、チワン（壮）族・ミャオ（苗）族・ヤオ（瑶）族・トン族などが暮らしている。広西チワン族自治区（面積23万6700平方キロメートル、人口4889万人〈2004年〉）は中国最大の少数民族、チワン族の居住地である。漢族2702万（62%）、チワン族1520万（32%）、ヤオ族147万（3%）、ミャオ族46万（1%）、トン族30万（0.7%）、それにコーラオ族、マオナン族、回族、プイ族、京族、スイ族、イ族、満族などが居住している。チワン族の婚姻習俗に不落夫家（ふらくふか）婚がある。不落夫家婚は、結婚しても不落夫家（実家と夫の家を行き来する）をし、身ごもるとようやく夫家に引き移り、家族としての生活が始まるというものである。不落夫家婚は1980年代ごろまで行なわれていた、とされるが現在でも結婚して子供が授かるまでは妻と夫が別居を続ける形態もある。結婚後すぐに同居をすることもある。中国の紙幣には4種の文字が使用されており、その中にはチワン族の使用しているものもある。紙幣には、「中国人民銀行」の中国語発音のアルファベット表記の他にモンゴル語（モンゴル文字）・チベット語（チベット文字）・ウイグル語（アラビア文字）・チワン語（アルファベット表記）で示されている。ラテン文字（ローマ字）・モンゴル文字・チベット文字・アラビア文字が紙幣に使用されているが、ハンゲル（朝鮮族）やイ文字（イ族）は使用されていない。チワン語はタイ系に属し南北二大方言があつてその差異は大きいだが、基本的に文法構造や語彙は同じである。

ヤオ族の女性は髪が長いことと美しいことで知られる。自分の身体よりも長くし、頭に結び上げている。生涯に一度、18歳の成人式の時に切る。切った髪はかもじとして結び上げるといふ。

デパートは9時あるいは9時半に開くといふ。桂林市と熊本市は友好都市（1979年10月1日締結）の関係にあり、熊本市の企業であつたニコニコ堂がある。ニコニコ堂は松野明美（女子マラソン）が現役時代に所属していたが、事実上ニコニコ堂は倒産し、桂林のニコニコ堂を引き継いでいた広島のエズミも撤退したといふ。合弁企業であつたが、現在は中国側単独で営

業を続けている元日系デパートということらしい。

中山北・中・南路があり、特に中山中路がメインストリートとなっている。孫中山（1866～1925）は桂林に半年ほど住んでいたことがあるという（住んでいたのは1921年のことらしい）。それを記念して中山路の名称を付したのである。

桂林の名前の由来となっている桂花とはキンモクセイ（桂林には50万本あるという）のことである。桂林とはキンモクセイの林の意味であって、市の木は「キンモクセイの木」、市の花は「キンモクセイの花」となっている。桂林の街路樹にはキンモクセイ、ガジュマル、クスノキが多い。大きい木はガジュマルである。

桂林はみかん・オレンジ・金柑・ザボンの産地で、みかんは500gを3.5円で売っていた。

桂林は市の条例でクラクションを鳴らすことを禁止しているという（よほど危険な場合は鳴らすのであろうが）。電動自転車が多い。グリーンナンバープレートを装着しており、充電を1回すると50kmの走行が可能だという。バッテリー節約のため夜間でもライトをつけない。事故も多い。黄さんによると、2014年の5月から電動自転車の運転には免許証が必要になったという。2人乗りもルール違反だというが、2人乗りをしているケースも見られる。ヘルメットの着用は自由だという。

中国の大学生は目の悪い人が多く、半分ほどが眼鏡をかけているらしい。バスの窓から桂林理工大学（七星区）が見えた。外国語学院（英語・日本語）や人文社会学院・芸術学院もある総合大学である。なお、少数民族は大学入試においては優遇策があるという。中国では、教員は「公務員」ではないらしい。「教師の平均的な給料は公務員に準ずる」という法律があるのだという。3年とか5年とかの有期契約の教員もいるらしい。中国では90%以上の人が外食で、食堂は5時半ごろから開いているという。小学校は給食がない。家に帰って食べるのである。

今年の旧正月は2月19日だという。銀行は年中無休らしい。

Ⅲ. 桂林点描

(1) 大墟古鎮（だいきょこちん、桂林市靈川県）

大墟古鎮は桂林市街地から南東に約18km、漓江沿いにあり明清時代の様式の建物（民家・店舗・作業場）の見られる古い街並みとなっている（現在の街の姿になったのは明の時代で、清代に栄えたらしい）。漓江には堤防が築かれているところもあるが、この辺には堤防が見当たらない。今も土産物屋が並んでいるが、かつては商業の中心地として栄えた時代もあったという。薬用酒や骨董品の店がある。薬用酒にはヘビやネズミの入っているものがあるという。ヘビの入っているのは見かけたが、本当にネズミの入ったものがあるのであろうか。桂林は米の産地で、二期作も行なわれている。米で造った白酒が多い。ヘビなどは白酒に漬け込まれているのであろう。骨董屋の扱っているものが本物の骨董品かどうかは、疑わしい。漢方医の看板もある。漢方の医者しか信用しない人もいるらしい。黄さんによると、大墟古鎮は8割が昔のものだという。古鎮の中ほどに万寿橋（石橋）がある。万寿橋は明の時代に造られ、洪水により崩壊したのを清の時代（1899年）に造り直したという。大墟古鎮は新しく修復したところもあるが、それは橋から向こうの方らしい。屋根に使われている瓦は薄い。桂林は台風も来ないし、地震もないという。通りに面した間口はさほど広くはないが、家の奥行きは深

い。万寿橋から少し歩いた向こうは新しい家だということで、引き返すことにした。永安門の裏側（通路の上部）に「泗水鐘祥」という文字があった。木造住宅なので火事が起こらないように、平安・安全を祈って記したものらしい。このあたりは金持ちが多かったという。向こうの（入口に近い方）門は太平門である。

家の表に置いてあるミカン（温州ミカン）の皮は縁起物ではなく、調味料として使うために乾燥させているのだという。スープの調味料として使うが、漢方薬としてもお茶の代わりとしても使用するらしい。古鎮の入口に仕切りだけの小さなトイレ（有料・1元）があるが、その近くに大きなトイレを建設中である。古鎮の若者は出稼ぎに行き、古鎮の住人は子供と年寄りだと言われるが、必ずしもそうではないようである。

大墟古鎮から桂林市街へ帰る途中、大きな石が道の真ん中にあり片側通行になっていた。崖の上からの落石である。来るときには気付かなかったので、我々がここを通り過ぎた後落石があったのであろう。あるいは、別の道を来たのかも知れない。我々の通る側は渋滞していなかったが、反対側は渋滞がひどく、車が全く動かない状態になっていた。

(2) 西門自由市場（桂林市象山区）

市場では犬の肉を吊して売っている。食用犬の飼育をしているといい、専門の犬料理店もあるらしい。アヒルやニワトリはケージに入れて、生きているのを売っている。黄さんによると、ネコもたまに市場で売っているという。しかし、ネコはおいしくないとのこと。広東人は何でも食べ、「蛇、猫、鶏」を「竜、虎、鳳凰」に見立てたスープ「竜虎鳳大会（ロンフーフォンターホイ）」があるという。確認できなかったが、桂林でも「竜虎鳳大会」が食べられているのであろうか。桂林は広東料理の世界なのである。

(3) 榕湖・古南門（桂林市秀峰区）

榕湖岸・古南門の脇には樹齢千年と言われる巨大なガジュマルがある。ガジュマルを中国語では榕と言うので、湖の名が榕湖となった。榕湖の北岸に古南門がある。古南門は唐代の南大門で、宋代に再建された。古南門の前で太極拳や社交ダンスをする人がいる。これらは女性が行っており、男性はあまり見かけない。

榕湖畔には4つ星ホテルの桂林榕湖飯店（秀峰区榕湖北路16号）がある。二重橋も見える。榕湖の中にある小島まで北斗橋（北斗橋は、上から見た形が北斗七星のように見える）で渡ることができる。

秀峰区人民法院という掲示のある建物があった。中国の人民法院システムは「四級二審終審制」をとっている。原則として、一つの事件に対する審理は一、二審法院が判決と裁定を行なって終わる。基層人民法院を第一審裁判所とし、中級人民法院を第二審裁判所とする。最高人民法院、高級人民法院、中級人民法院、基層人民法院の4段階に分かれており、行政区画に基づいて設置されている。最高人民法院は北京に、高級人民法院は各省・自治区・直轄市の首府に、中級人民法院は地区級市・自治州の政府所在地に、基層人民法院は県・自治県・県級市・市管轄区の政府所在地に置かれている。秀峰区人民法院というのは中級人民法院ではなく、基層人民法院であろう。

(4) 通宝芸術センター

通宝芸術センター（国営美術品販売所）は少数民族支援のために工芸品を販売しているのだという。紫檀細工のショーケースに飾られているのは、日本の伊万里焼のようではあるがそうではなく、景德鎮の古い焼き物である。赤い色のメノウの香炉もある。大きな琥珀がある。琥珀は松脂等の樹脂の化石であり、中に虫の化石が入っているものが高価である。アリ・ハエ・アブ・クモなどが入っていることがある。琥珀の産地としてはバルト海沿岸が知られ、ロシア・ポーランド・ドイツ・デンマーク・リトアニアなどが産出している。特に、ロシアの最西端のカリーニングラードは有名である。しかし、ここに飾ってある琥珀は中国産のものである。

白磁に見えるが、光に透かすと龍と鳳凰の絵が見える、薄い容器がある。器地の薄さに特徴のある景德鎮の薄胎（はくたい）であろう。また、光に透かすとようやく見えてくる装飾は、暗花（あんか）と呼ばれるものと思われる。釉薬（うわぐすり）下の素地に線彫りの模様を施す技法である。白玉（はくぎょく）製の白菜の置物がある。中国語では白菜と百歳は同音で、白菜は長寿の縁起物なのである。ショーケースには9品置かれており、全部で12万5000元（250万円ほど）だという。日本までの運賃は政府が負担し、国の鑑定書もあるという。ただし、3年間は転売してはいけないという条件がある。全部で250万円ほどだが、単品でも販売する。その場合、メノウの香炉は40万円、琥珀は30万円、光に透かすと龍と鳳凰の絵が見える茶碗は20万円だという。ここは国の直売所で、電気もきていないようなところに居住している少数民族のための寄付金（90%が）になるのだという。

浙江省から産出される青田石を用いた装飾品がある。これは切手のデザインにもなったという。青田石と称するのは産地が青田県であることに由来する。石の値段が高くなり、細工をする職人の人件費も高くなったために工芸品の値段が高くなっている。梅瓶（めいびん）がある。桂林靖江王陵から多くの梅瓶が出土したことから、桂林は梅瓶の故郷と言われている。梅瓶というのは、中国陶磁器の器形の一つである。首が短くて口が小さく、肩張りがあって下方に向かって細くなり、底部がやや裾広がりになった形の瓶のことである。梅瓶は景德鎮産の青白磁に優れたものが多い。

一刀彫の観音がある。2年かかって彫ったものだという。

(5) 象鼻山（しょうびざん）

象鼻山（象山と略称）という小さい山は桂林のシンボルとなっており、漓江と桃花江（漓江の支流）が合流する地点に位置している。象が漓江に鼻を入れて水を飲んでいるように見え、象の鼻と身体の上に洞穴がある。その丸い洞穴は水月洞と呼ばれている。頂上にある普賢塔は明代に造られたものである。

(6) 七星公園

七星岩には鍾乳洞がある。ラクダの形をした駱駝山があり、パンダ舎がある。遊園地もあり、桂林市内最大規模の公園となっている。パンダの1日の睡眠時間は16時間程度と言われる。パンダにしっぽはあるものの人間の小指ほどの長さで太さしかないらしい。パンダは黒と白といわれるが、ここにいるパンダは黒と茶色と言った方がよいかもかもしれない。汚れているのであろうか。メスのパンダ、ユエユエ（月月）は23歳。パンダの平均寿命は25歳だという。オスのヤンヤン（陽陽）は15歳、もうすぐ16歳になる。ヤンヤンがここに来たのは2007年

9月である。ユエユエの前にいたメイメイ（美美）は32歳まで生きたという。世界最高齢のメイメイが2005年6月に死去した後、その4ヶ月後の12月18日にユエユエは来た。パンダの主食は竹であるが、飼育下ではニンジンやリンゴも好んで食べるという。

(7) 畳彩山（じょうさいざん）

漓江の西岸にあり、名月峰・仙鶴峰・于越山・四望山から成っている。名月峰の標高は223m（比高は72m）、450段ほどの石段がある。名月峰は観光のポイントとなっていて、山麓から頂上までの往復は1時間ほどである。仙鶴峰は畳彩山で一番高い峰で標高253.6mだという。桂林市最高の山は、市中心から約8kmのところにある堯山（主峰の標高907m、比高760m）らしい。桂林市区の最高の山は畳彩山である。

名月峰の山腹にある洞窟（風洞）には唐宋時代の仏像（摩崖仏、80体あまり）が並んでいる。寝姿の仏像もある。畳彩山の眼下には木龍湖がある。木龍湖と穿山岩とは車で15分ほどの距離である。畳彩山は、山肌の地層が何重にもなった縞模様をしていることから名付けられという。

(8) 南溪茶苑

南溪茶苑は木龍湖公園から車で15～20分のところにあるお茶屋である。桂林は茶の産地でもある。世界三大嗜好飲料は茶・コーヒー・ココアなどと言われることもある。日本・韓国・中国は嗜好飲料として茶を飲み、それぞれ茶道もある。南溪茶苑で販売している茶の種類は青茶類・花茶類・黒茶類・野性茶類・特効養生保険茶に分類される。キンモクセイの花茶である桂花茶は湖北咸寧・四川成都・重慶それに桂林が主たる産地となっている。桂林の人は漢方茶も飲み、健康のためのバランスをとっている。朝はウーロン茶よりも緑茶やジャスミン茶を飲む人が多いらしい。緑茶も紅茶もウーロン茶も製造方法が違うだけで、カメラアシネンシスというツバキ科の茶の樹から作られている。緑茶は不発酵茶、紅茶は発酵茶、ウーロン茶は半発酵茶である。ジャスミン茶は緑茶などにジャスミンの香をつけた茶である。若い人が緑茶を飲むのに対して、年配の人は紅茶を飲むらしい。発酵させた茶は身体があたたまるといふ。田七花（でんしちか）茶は田七人參の花を茶としたものである。田七人參は、種をまいてから収穫できるまで3年から7年かかるために三七（さんしち）人參という別名もある。田七人參の主な産地は、雲南省や広西チワン族自治区の海拔1200m～1800mの地域だといふ。田七人參と朝鮮人參（高麗人參）は同じウコギ科に属するが、田七人參は朝鮮人參を凌ぐ薬効が認められておりサポニン为例にとれば田七人參は朝鮮人參の7倍の成分が含まれているといわれる。茎や根は漢方薬として用いられる。田七花茶は、高血圧・高脂血症に効果があるとされる。羅漢果茶などというものもあり、目によいといわれる。羅漢果はウリ科の多年生つる植物で、広西チワン族自治区の永福県（桂林市）・融安県（柳州市）・臨桂区（桂林市）が主要な産地となっている。自然の甘味があるが、通常生では使わず乾燥させ砕いたものを茶として飲んだり、調味料として使用したり、漢方薬として用いたりする。ヤオ族の間では、羅漢果は「神果」と呼ばれ「万病に効く」とされていたといふ。

(9) 穿山岩（せんざんがん）

穿山公園は小東江（漓江の支流）の東岸にある。大型鍾乳洞の穿山岩（穿山の山腹にある）

は1979年に発見されたとも、唐の時代に知られていたとも言われる。穿山は5つの峰がある。西峰の麓にある洞窟は上下の二層に分かれている。下層の洞窟は高さ9m・幅13.3m・長さ31mで通り抜けることができる(月岩とも空明洞とも呼ばれる)。月岩の上層の洞窟は高さ6m・幅8m・長さ16mという。通り抜けることができる洞窟があることから穿山という名が付いたらしい。なお、鍾乳洞のことを「・・・岩」と呼んでいる。穿山には洞穴が30余りあると言われているので、その中で最も美しいとされる鍾乳洞(穿山岩)が発見されたのが1979年ということかも知れない。桂林には鍾乳洞がたくさんあり、黄さんによると400以上あるという。大型鍾乳洞である穿山岩は、全長517mで見学コースが248mあるという。鍾乳石・石筍・石幔等がある。鍾乳洞の照明は自然色ではなく、いくつかの原色の照明となっている。石幔というのは薄く幕のように垂れ下がっている鍾乳石で、裏側に付けられた照明の光が石を通して見える。鵝管石(がかんせき)もある。鵝管石というのは細長い管状の鍾乳石のことである。鵝管石は鍾乳石の発育の過程における最初の型で、炭酸カルシウムを多く含んだ地下水が漏出し、上から下に向かうように成長したものである。洞窟の中は19度~20度と暖かい。「古榕送客」などという名が付けられた石もある。石柱がガジュマルの幹に見えるということであろう。

(10) 桂林ナイトクルーズ

桂林四湖(杉湖〈さんこ〉・榕湖〈ようこ〉・桂湖〈けいこ〉・木龍湖〈もくりゅうこ〉)ナイトクルーズ(19時30分~20時30分)が行なわれている。桂湖は、麗沢湖・宝賢湖・西清湖の総称であり、元々は宋代の城西の堀であった。木龍湖は埋め立てられて工業団地となっていたのを復元したものらしい。工業団地を移転して、観光開発をしたということのようである。古代の護城水系を利用して開発した新しい遊覧景観である。桂林市政府がプロジェクトを提出したのが1998年9月、1999年8月にナイトクルーズのための工事が始まり、2000年6月に完成、2002年6月に通航を実現したらしい。ナイトクルーズのために橋を造った。湖に架かる11の橋のデザインはそれぞれ異なっており、日本の錦帯橋や日本橋・ニューヨークのブルックリン橋・サンフランシスコの金門橋・パリの凱旋門(凱旋門のある迎賓橋はハンガリーのブダペスト橋を模したという)や万里の長城を模した橋が造られている。ナイトクルーズでは鵜飼ショーも見ることができ、獲ったコイや草魚・フナを吐き出させられる鵜の姿が見られる。日本の長良川鵜飼で鵜匠が得るのは鮎である。

桂林四湖ナイトクルーズは杉湖から出発し、木龍湖で折り返して再び杉湖に戻ってくる。杉湖には日月双塔があり(クルーズ船が出発するのは日月双塔の対岸)、木龍湖の北側には木龍塔がある。杉湖の南岸にある日塔と月塔との距離は18m(日月双塔は18mの水中トンネルで結ばれている)。日塔は銅できており、九階建てで高さ42m。月塔は瑠璃の塔で七階建て、35mの高さである。夜ライトアップされると、日塔は金色に、月塔は銀色に輝く。日月双塔は唐代に建っていた仏塔の基礎の上に再建したということらしい。塔は観光用に、新しく2001年に建設されたものだという。木龍塔(高さ45m)は上海にある宋代の龍華塔(龍華寺の前に建っている)を模して造られたと言われる。日塔は2014年10月1日に火事があった(焼失することなく、現存している)。原因は電線のショートらしい。観光客のいない朝早く起こったために死者やけが人は出ていないという。10月1日の火災以来停止されていた日月双塔の夜間照明が復活したのは2014年12月20日過ぎのことらしい。

杉湖と榕湖の間にある陽橋はローマにあるビツェ橋を模したものだという。榕湖と桂湖の境あたりにあるのが迎賓橋らしい。金門橋は桂湖にある。桂湖と木龍湖の境あたりにあるのが宝積橋で、さらに木龍橋をくぐって行く。木龍橋は中山北路の一部である。木龍湖のそばにはライトアップされた暈彩山があり、水際にはいくつか舞台があって船が近づくと歌や踊りが始まる。折り返し点の城壁の下も舞台となっており、大太鼓を用いた少数民族の踊りが見られる。太鼓はチワン族のものだという。山の村では、太鼓楼に吊るした太鼓で連絡をとるなどのことがなされていたらしい。今は太鼓楼が集会所として使われたりしているという。太鼓のよいものは銅でできており、中央部に太陽がデザインされている。

川と湖の間には水門がある。水門ができたのは2002年というから、12~3年前のことである。水面の落差を調整して船を通すのである。湖と川とは水位差が大きく（湖の方が水位が高い）、雨期で4mの差があるというから乾期は差がもっと大きくなる。

(11) 漓江下り

竹江（ちくこう）から乗船、興坪鎮（こうへいちん）で下船した。竹江は桂林市街から28km、桂林市雁山（がんざん）区にある。渇水期なので、興坪鎮が終点になっていたのかも知れない。本来、終点は陽朔船着き場であり、興坪鎮は全行程（60km、4時間）の3分の2ほどのところに位置している。今回は40kmを下った。3階建ての船に乗る。全席指定席で、ひとつのテーブルに8人の席と6人の席がある。筆者の席は8人席の方であった。船は100人乗りである（一階席64人、二階席36人）。9時半に出発。3階は展望デッキである。10隻ほどが9時半に出発し、10隻ほどの遊覧船が一行に連なっていく。漓江で洗濯している女性がいる。アヒルの放し飼いを多く見かける。餌を与えるので戻ってくるのだという。

漓江下りで見える景観は、特に冠岩（かんばん）～興坪鎮の間が良い。桂林市雁山区草坪回族郷に位置する冠岩の下には全長12kmの鍾乳洞があり、三層に分かれているという。羊の蹄のように見える羊蹄山がある。観光用の筏が川下りをしている。このあたりの観光用の筏は竹ではなく、プラスチックのパイプ8本をワイヤーと金具で固定しているようである（小型のエンジンを積んでいる）。漁師の使用する漁労用の竹筏は5本の孟宗竹を組んだものである。川原で川砂を取っている人の姿がある。「童子拝観音」は二つの山が並ぶ姿を観音と子供に見立て、蓮に乗った観音を子供が拝んでいるように見えるとのことだが、そうは見えない。サントリーウーロン茶のコマーシャルに使われている風景がある。20元札に使用されている黄布倒影（おうふとうえい）は、川面に黄色の布が映っているように見えるところだという。水面に山の影が映り、船が通るとき水面に映る山の頂上を航行しているように感じられる、のだという。この付近を通過する頃が食事（昼食）の時間となる（バイキング方式）。食事が終わるとすぐに下船しなければならない。

(12) 興坪鎮（桂林市陽朔県、陽朔鎮中心部から16kmほど）

ここには日本人である林克之（はやしかつゆき）が自費で造った展望台「和平亭（東屋）」がある。ここで老寨山旅館（2002年開業、陽朔県興坪鎮碼頭）を営んでいる林は、ネパール（チョモロン村）で小規模発電所を自費で造ってきた長野県茅野市のタクシードライバー、だという。1年の半分をタクシー運転手で稼ぎ、残りの半年をチョモロン村で過ごすという生活を10年間続けたらしい。全くの無償で発電所を造ったことは、現地の他のボランティア組織

に快く思われなかったらしく、ネパールでボランティア活動ができなくなっただけで、少し大型の発電施設を造っていた組織と軋轢があったようである。

林の妻は中国人女性の董彬才（ドン・ビンツァイ、28歳年下）である。林は1997年から、漓江のほとりにある老寨山に登る道路（1159段の石段を敷設）、「友好亭」、「和平亭」を造るなどをしてきたという。かれが初めてこの地を訪れたのは1996年で、1996年から2000年の間は日本とこことを往復する生活を送っていたらしい。かれは10年以上、漓江沿いでゴミ拾いを行い観光地の景観を守っているという。

林は1946年、静岡県に生まれた。50歳のときにここに来て、20年ほどになる。70歳が近い。かれは桂林語（桂林方言）を不自由なく使いこなしているらしい。桂林では広東語は使われず、南方のなまりがあるものの北京語も使われているという。桂林語は北京語に近いと言われている。

黄さんによると、興坪鎮は民宿が多いという。林の経営する民宿から離れたところを指差しながら、向こうは全部民宿だと表現した。老寨山の山頂近くには、はしごがあるという。垂直に近く、石段が造れないらしい。「友好亭」は山頂にあるらしいが、「和平亭」は老寨山の下にあり（少し登ったところ）、漓江に臨んでいる。

興坪鎮には古い街並みがある。興坪鎮は小さい町で、老街と老寨山旅館は近い。黄さんによると、去年（2014年）、古鎮を新しく復元したという。まだ工事が終わっていないところもある。古鎮には人が住んでいて古い街並みがあったのであるから、大幅に改修したということである。1700年ほどの歴史があるらしい。劇場もある。古鎮は、かつてここに住んでいた人と、現在店舗で商売を営む人と、住民が入れ替わっているという。かつての住民は別のところに家を建てて住んでいる。外装のレンガは古く見える。商売をする人と、かつての住民とは相対で相談して家を買うのだという。家は、市政府が決めたように造らねばならない。内装の材料も市政府が決めるらしい。古鎮にホテルを建築中である。外観は古い建物であるようにする。自転車の修理店がある。店を開いてはいるが、誰もいない。自転車に乗る人が減っているのだ。通りに面した前の部分は店舗だが、奥には人が住んでいる。以前からの住民は奥に住んでいて、店舗の部分の貸して家賃を貰っているケースもある。

向こうの山の斜面にビニールハウスのように見えるものがある。「ビニールハウス」というよりは、果樹を覆っている「ビニール覆い」と言った方がよさそうなものである。

(13) 陽朔

陽朔県（桂林市）は陽朔鎮・白沙鎮・福利鎮・興坪鎮・葡萄鎮・高田鎮の6鎮、金宝郷・普益郷・楊提郷の3郷から成る。陽朔鎮から桂林市街までは70km、車で2時間ほどの距離である。陽朔県の面積は1428平方キロメートル、人口は約30万人。印象劉三姐ショーは春節の前1カ月ほどは休演らしい。陽朔はザボンの産地で、果樹園がある。

高田鎮を流れる遇龍河は漓江の支流で全長43.5km。遇龍橋（明代創建）は白沙鎮（龍譚村）にあるらしい。

遇龍河を下ってきた竹筏をトラックで上流に運んでいる。遇龍河の竹筏は本当の竹でできている。夏なら川で水泳ができる。ヘリコプターでの観光もあるらしい。遇龍橋が竹筏の乗り場になっており、工農橋が降り場で、そこから筏をトラックに載せて再び乗り場まで運んでいる。

月亮山（高田鎮風樓村、陽朔鎮中心部から約 6 km）は山の中腹に大きな丸い穴が開いている。石灰岩でできた山で、山に開いた穴が見る角度によって三日月に見えたり満月に見えたりする。往復 1 時間半で登れるらしい。黄さんによると、穴の大きさは横幅 35 m、高さ 25 m だという。月亮山はロッククライミングの練習場にもなっており、クライマーのトッド・スキナーの作ったルートもあるという。月亮山は穴のところまでは石段がある。穴から上にも登れるが石段はないらしい。山道は急で、暈彩山に比べると登るのがはるかにきついという。

レンコンを栽培しているところがある。

西街は陽朔鎮のメインストリートである（西街は西洋人が多い街という意味らしい）。西街は、漓江下りの終点「陽朔」の船着場の前帯の、数百軒の土産物屋が並んでいるところである。値段の交渉ができるのはもちろんである。東西坊一少数民族手工芸品店は NHK が紹介した場所だという。

IV. おわりに

「注射で小顔に」という意味の表示を見かけた。今の中国の美的感覚では小顔がよいという。楊貴妃のような顔形は好まれない。脂肪溶解注射で手軽に痩せた顔になるという宣伝であろう。

現在の中国は離婚が多い。一人っ子で、我慢することができないらしい。

ラテックスとは天然ゴムのことらしい。枕やマットレスなどの寝具を、日中合資で製造販売している企業（「ラテックス」と呼んでおく）がある。社長（日本人）は大分県宇佐の人だという。営業の陳氏は市川にある千葉商科大学で学んだ。加藤寛が学長（1995 年～2007 年）であった頃である。ラテックスは建物の 1 階・2 階に入っており、同じ建物の 3 階には NEC が入っているという。日系企業の多い地区になっているらしい。

桂林は、1944 年、日本軍に対する防衛戦争が行なわれた激戦地であった。日本軍は 7 個師団 15 万の兵力、タンク 300 両、飛行機 30 機あまりと大量の重砲を桂林の前線に集結させ桂林侵攻の準備をし、10 月 28 日攻撃を開始したという（大陸打通作戦の一局面）。桂林が陥落したのは 11 月 10 日である。15 万以上の日本軍に対して、中国側兵力は 2 万 5 千人しかいなかったらしい。市街地の 8 割が日本軍によって破壊されたという。中国が桂林を回復したのは 1945 年 7 月 28 日である。日本と中国の関わりについて、また、中国の変化について、今後も知見を広めるべく努力を重ねていきたい。